

無の境地



インドネシアのジョグジャカルタで我々は世界遺産の遺跡を巡るサンライズツアーに参加した。ツアーは山に上りて御来光を拝むことから始まる。そのため早朝 4 時に起床、5 時には迎えの車に乗りホテルを出発。もちろん非常に眠い！が我々は目をこすりながらバリバリの寝起きで山を登った。本来ならボロブドゥール遺跡が見えるらしいのだが、この日は霧が濃くて目にすることができなかった。しかし霧の上に上る日はとても美しく、心を打たれた。

日の出の後は遂に世界遺産ボロブドゥール遺跡である。これは仏教遺跡で、ブッダの生涯などが壁に彫られている 4 層構造の回廊と中心のストゥーパと呼ばれる 3 層構造の円壇がある。ストゥーパの 3 層はそれぞれ、煩悩で生きる「欲界」、悟りを求める「色界」、物質世界から解脱した「無色界」を表現していると考えられているそうだ。

つまりこの遺跡は中心に向かうにつれて俗界から無の境地へと向かっているのだ！

ということで無の境地へ達するべく 4 層の回廊、そして 3 層のストゥーパを懸命にまわった。

そして、その結果がこちらだ↓。



どうだろう？無の境地に達しているようにしか見えない。座禅も組んでいるし、完全に無の境地に達している。しかし我々はこの後、欲を絶つことの難しさを痛感した。というのもボロブドゥール遺跡を離れると早朝から行動しているため凄まじい空腹に襲われ、その辺りの店で軽食をとり、さらにはその後の車での移動中に睡魔に襲われスヤスヤと夢の世界へ……。やはり並の人間には欲を絶つことは困難なようだ。